

高山 : 今日、ご覧のようにパパ率が高いんですが、実は今あちらに座ってらっしゃる皆さんはシングルファーザー。



尾木 : 僕、長年教師やっていますけど、(シングルファーザーは) いなかったんですよ。  
今日は、しっかりお勉強しようと思っています。

高山 : うめさん、ちなみにシングルファーザーってどんなイメージですか？

うめ : 周りにもいるんですけど、家事と仕事の両立が大変だなんてイメージがあります。

高山 : では、さっそく皆さんのところに合流しましょう。

### ウワサの保護者会！

今日のテーマは「シングルファーザー」 子育てに奮闘するパパたちに迫ります。

#### 【今回ホゴシャーズ】

うめ (父) : 長女・小2/長男・3歳

すずらん (母) : 長女・中1

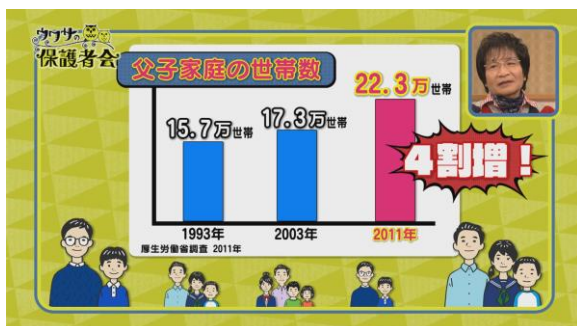
ライオン (父) : 長男・高3/次男・中1/三男・小3

まつ (父) : 長女・24歳/次女・大4

ライチョウ (父) : 長女・小1

オオワシ (父) : 長男・高3/長女・中3/次男・小5

全国の父子家庭の数は20年で4割増えて、およそ22万世帯！ひとり親世帯の15%にあたる。



全国のホゴシャーズから、シングルファーザーは  
「経済的には余裕がありそう」「仕事と家事の両立が難しそう」という声が・・・

現実には…？平均的な父子家庭の年収は390万円。厳しい生活を送る家も少なくない。



さらに、シングルファーザーの4分の1が父子家庭になったあと「時間が合わない」などの理由で転職。やっぱり育児をしながら働くのって難しい。

スタジオのシングルファーザーの皆さん、実際はどうなんですか？



高山 : 転職という話がありましたが、シングルファーザーになってから、職を変えましたという方は？  
4人中3人。(ライオンさん、まつさん、オオワシさん挙手)

高山 : まつさんは？

まつ : 私はシングルファーザー歴15年なんですけど、3年ごとに職を変えるようになっちゃいましたね。やっぱり、年収もどんどん下がっています。その原因は“腸閉塞(ちょうへいそく)”という病気になってしまって…。

高山 : まつさんは、最初は家電量販店で店長として働いていらっしやった。

まつ : そうですね。朝8時半くらいから夜9時くらいまで仕事。

いったん帰って、子どもを(家に)置いてきて、また店に戻って仕事をやっていました。

高山 : 店のトップという立場をされて、さらにまた転職。

まつ : そうですね。すると、やっぱり年取はドドンと下がりますね。

高山 : オオワシさんは、何度もため息をついていらっしゃいますが。

オオワシ: 私は、前職で一応事業部長まで務めさせていただいたんですね。いろんな事情が重なって業績が悪化しまして、そのときに、その業績の悪化と私の家庭環境をひも付けられて、(父子家庭)だからだろってというような言い方をされて「ちょっとそれはねえだろう」と…。

尾木 : やっぱり、男は仕事をするものっていう社会的な前提がありますよね。そういう中で、理解を得るっていうのはなかなか大変ですよ。

高山 : ライオンさんもお子さん3人いらっしゃいますが、転職も経験されて、とても奮闘されている日々を、取材をさせていただきました。まず、その映像をご覧くださいと思います。

毎朝6時前に起きるライオンさん。

ライオンさんがシングルファーザーになったのは、妻をガンで亡くした7年前から。

朝はまず、長男と次男2人分の弁当作り。

おかずは子どもたちの好みに合わせて変えている。

ライオン: そぼろを入れてくれ言うんですよ。これが好きなんですよ、長男は。作ったときは、絶対入れなあかん。

およそ20分で今日のお弁当が完成。



なんだかお弁当茶色いわね～(笑)

ライオン: 野菜がないから怒られます。野菜入れるの、難しいですよ。

洗濯は子どもたちが部活で汚した服など4人分。ちょっとでもサボるとあつという間に大変なことに。

最初に起きてきたのは、長男くらま君・高校3年生。

続いて、次男のゆうすけくん・中学1年生。

ところがまだ起きてこないのが1人…。

ライオン：こうた！起きて。はよ。

三男のこうた君・小学3年生。朝は大の苦手。

これで朝は終わりと思いきや、トラブル発生！

ライオン：音読してないよ！音読。

こうた：した。

ライオン：音読してないし！

こうた：した。



宿題をやっていないことが発覚！！

こうた：読んだって、言ってるやん。

ライオン：何の本読んだか教えて。

こうた：「宝島の冒険」

ライオン：どんな話なの？

こうた：宝を…探しに行く…。

ライオン：絶対ウソやし！

(7時) 45分だから、あと15分でしなきゃあかんで。うちも行くんやろ！

こうた：行かへんし(笑)

ライオン：間に合わへんやろ！





こうた：「…冒険を想像して、物語を作りましょう。」〈音読が終わって〉よし！

ライオン：もう一回！

こうた：えー！

ライオン：ウソやウソ。はい、よくできました！

やっとのことで子どもたちは学校へ。

ライオン：自分の時間がない。(子どもたちに)とられてしまう。

そこが僕の場合では、戦争みたいな感じ。

会社の代表取締役だったライオンさん。家庭のことは妻に任せきりだった。

そんなとき、妻に突然のガン宣告。そこからわずか2週間で帰らぬ人に。

ライオン：すべてが当たり前やと思っていたんですよ。(妻に)ご飯作ってもらうのも、当たり前っていうか、それが普通だと思っていたんですよ。(妻が)いなくなったら何もできないというのが僕でした。

その後、仕事と家事の両立が難しくなり、子どもたちと過ごす時間を増やすために会社を退職。

現在は2つのパートを掛け持ちして、貯金を取り崩しながら生活している。

ライオンさんには今、気にかかっていることがある。

それは三男・こうた君の食事のマナー。



ライオン：足なに、足！下におろさなあかんよ。足！

(茶わんを持つ位置は)上やもっと！

さらに食べ残しもしょっちゅう。

こうた：お父さんポテトサラダ無理。

ライオン：食べて。全然、量多くないし。

こうた：もう無理！ギブアップ。薄い…。

ライオン：薄い？なにが？

こうた：味…。ベーコンとか入ってたらいいけど。

ライオン：文句言うな。

ライオン：(こうたが)もう少し小さいときに、横に付いてあげればよかったかなと思います。上の2人は母親に(食べ方を)教わっているのです。(こうたに)そこが僕はできていないので、責任を感じています。

自分の知らないところで、子どもの模範になっていた妻。

ライオンさんは1人になって、そのありがたみに改めて気づいた。

高山：あの宿題のやりとりなんて、なかなか周りのお父さんじゃ、ああはいかないんじゃないかなっという。

すずらん：ママでもあそこまで見てあげない方だっていますよ。

高山：オオワシさんが、「俺もそれ思った」とつぶやいていらっしやいました。

オオワシ：一番下の子は幼稚園の年長さんの時に母親を亡くしたものですから、(息子に)かかりつきりになることがどうしてもできなかつたんですよね。だから、こういう言い方したら(子どもに)申し訳ないんですけど、いろんなことがちょっと抜け落ちちゃっているなっというの、自分の中でどうしてもあるんですよね。

高山：VTRの中でも登場しましたが、奥様を(宣告から)2週間後に亡くされた。

ライオン：そうですね。(ガンと)宣告されて、余命数か月と言われたんですけど、胃がんが肺に転移していたんですよ。もうあっという間でしたね。

高山：そのとき、これからどうしよう？

ライオン：もう、どうなるかというのは、一切考えないですね。もう、あした、あしたの毎日やったからね。僕の場合は死別の“悲嘆”が出てくるのが、本来は喪に服すときに泣かないといけなかつたんですけど、僕は泣けなかつたんですよ。泣く時間なかつたんです。1周忌のときに納骨して初めて女房がいないというの気づくんです。その時から、何か逆にパワーをもらったという。

高山：そこで変わった？

ライオン：変わりましたね。(妻の存在が) 改めてありがたかったなっていうのを感じた。(私は) 仕事ばかりしていましたから。(妻と夫は) 役割分担やと思っていたら、もう大きな間違いでした。やっぱり(家事を) 手伝っていても、手伝ったって上から見ていたからね。だから手伝わないでと(妻に) 言われた。

尾木：言われる、言われる。かえって邪魔だからね。

ライオン：でも、そういうお父さんだったんだと思います。(会社員を) 辞めてからは、完全にもう同じ目線になって、母親目線になっているんですかね。(子どもが) 今とおしくてしかたがない。許せる自分がいるんですよ。

高山：ライオンさんの奮闘を、お子さんがどんなふうに見ているのか、息子さんの声を聞いてきましたので、こちらをご覧ください。

ライオンさんの長男、高校3年生のくらまくんは大学受験の真っ最中。  
小さい頃はお母さんと一緒に絵を描いたり、木工細工をしたりするのが好きだった。  
将来は建築デザイナーを志し、家計のために国立の大学を目指している。  
そんなくらまくんにお父さんとの生活を振り返ってもらった。

### お父さんはシングルファーザーになって変わった？

くらま：だいぶ変わりました。どちらかという、お父さんは仕事に出てはったから。休日は野球とか一緒に外行って遊んでいて、あんまり家のことをしてなかったなっていうイメージ。でも、(今は) なんか朝起きて、洗濯してご飯作って、自分だったらできないなと思います。

### そんなお父さんに言いたいことは…？



くらま：小学校5年でお母さんが亡くなって、そこから今まで成長できたのは本当にお父さんのおかげやと思っています。今目標にしている建築とかのデザイナーになって、いずれは独立してやりたいなと思っています。

すずらん：やっぱり（子どもって）自分たちのためにいかに時間を割いてくれたかっていうのが大事だ  
と思うので、どんなお父さんよりも尊敬してもらえるお父さんになれるんじゃないかなって思  
います。

高山：うめさん、背中が丸くなってきちゃって…（笑）



うめ：頑張っているんですよ。だから、私はそういうときのために、常に（妻の）手伝いはして、パ  
ッとふいのことが…。

オオワシ：手伝って言っている時点でダメですよ（笑）

すずらん：ダメ、ダメです！

うめ：ダメ、ダメですね！…

家事、やるようにはしていますけどね。

まつ：父子家庭（のお父さん）は家事をやっている当事者って言う自負があると思うんですね。やっ  
ぱり、普通のお父さんを見ると、“つまみ食い家事”だったりするところが見えるんですね。ち  
よっと普通のお父さんにはわかんないのかなっていうところは、父子家庭の自負としてあると  
思うんですよ。

オオワシ：晩酌のタイミングまで考えますもんね。

まつ：そうですね。酒飲まないですよ。

オオワシ：飲めないのでからね。子どもが小さければ小さいほど飲めない。

高山：だから、（うめさんが）手伝うって言った瞬間に炎上してしまった。

うめ：（私、）未熟ですね、本当に。

尾木：（シングルファーザーの皆さんは）価値観とか考え方を、ガラッと変えておられるもんね。変わ  
らざるを得なかったのかわかりませんが。

高山：まだまだ見ていきたいと思うんですが、ライチョウさん、女の子のお子さんがいらっしやると。  
女の子との2人暮らしの現状というのに、カメラがお邪魔しました。こちらをご覧ください。

娘のさらちゃんと2人で暮らすライチョウさん。  
仕事以外の時間はいつも一緒に過ごしている。



〈2人で焼きそばを作る〉

ライチョウ：キャベツ大きくてもいいんじゃないかな？

じゃあ、これ横に切れる？大きめでいいから。

さら：大きく♪

ライチョウ：やらせてやらせてって感じで、料理していると横に来て、卵割りたいとか。

1人でいろいろやってほしいなって思いはありますね。自分がもし、熱が出て寝込んだときとか、ある程度自分で何かできるように、考えて行動できるようになってほしいと思います。

2人：いただきます。



とても仲のよい、さらちゃんとライチョウさん。

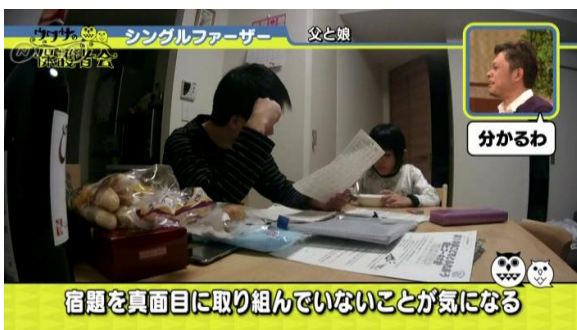
でも、2人だけで生活をしていると、優しいライチョウさんも時には・・・

ライチョウ：何だ、この字？何だ、これ？これ“+（たす）”か？

ダメだって言っているだろ！

宿題の出来よりも、真面目に取り組まないことが気になったライチョウさん。

ライチョウ：問題を間違えるとかじゃなくてキレイに書けて言っているんだよ！読めないって。



寝る前にも・・・

ライチョウ：さら、寝る用意しよう。

さら：歯磨き、父ちゃん行こう。

ライチョウ：まだ。

さら：一緒に歯磨きしよう。

ライチョウ：持ってきたさい！

さら：えーなんで？

ライチョウ：(洗面所に行くのが) 怖いのか？

さら：怖い。

ライチョウ：何が怖いのか？！

家事で忙しいときに甘えてくる娘に、もっとしっかりしてほしいと、ついついイラだってしまう。

ライチョウ：だから、持ってきたさいって言っているじゃん！電気付けてよ。それぐらいやってよ！

さら：じゃあ、見ていて。

ライチョウ：見ているから。(ドアを) 開けなさいって！開けなきゃみえない。

さら：ぶー。(ドアを) 開けた…。くでもさらちゃんは洗面所に行かない)

ライチョウ：電気付けて。見ているよ。

ライチョウ：やっぱり、ちゃんとしてくれよっていう思いがすごい強くなっちゃって、ダメですね。

それを止められればいいんですけど、止められないっていうのは。

母親が怒るとの違いと違いますか？

ライチョウ：(母親とは) 違うんじゃないですかね。温かさっていうか、怒り方ひとつにしても。

なんかお母さんって、怒った後にもそのフォローしてあげられる(気がします)。



さらに、娘とお父さん2人だからこそその悩みもある。

ライチョウ：同世代の女の子の言葉づかいとか見ていると、(娘のほうが) ちょっときついんですね。前に先生に聞いたのは「ふざけんな！」とか。まさに僕が娘に怒っている口調そのままを、友だちに言っていたりしているのを聞いたときに「あー」って思います。

高山：周りのパパたちはみんな、「ある、ある」「あります、あります」っておっしゃってね。

ライチョウ：それが、聞けてちょっと安心しました。自分だけかなってという思いがすごくあったので。

高山：ありますか？

ライオン：あります、あります。

まつ：ダメだとわかっているけど、どなっちゃいます。

高山：でも、そのあと、やっぱり襲ってくるのが後悔？

ライチョウ：そうなんです。 (娘の) 寝顔見て、なんであんなことで怒っちゃったんだろうと、すごく後悔して、怒っての繰り返し。

すずらん：でも、ママも一緒。本当に、一緒ですよ。

尾木：それは、起きているときに「ごめんね」って声に出しておわびすればいいと思う。

うめ：男は結構かたいから、言っちゃったことにごめんなさいってなかなか言えないです。謝れない。

尾木：男だからね。かわいそうね、男って(笑)

(一同笑)

高山：オオワシさんがずっと、「ああ。そう、そう」って、つぶやいていらっしゃいました。

オオワシ：「ちゃんと(してくれよ)」っていうキーワード出てきましたよね。自分はその突き詰めたんですよ。「ちゃんと」ってなんだろうって…。ないんですよね。

結局それって、自分が勝手に作り上げたものを押しつけようとしているだけだっていうのに気づいたときに、子どもとの接し方にもっと柔軟性を持たせなきゃダメだなって反省しましたね。



ライチョウ：それで、子どもとの接し方をそこで変えることができたってことですか？

オオワシ：一番下（の息子）に八つ当たりに、ガーって言っちゃって…。たぶん、追い詰めたことも何回もあったと思うんですね。そのたびに自分自身を自分で責めて、何回か市の相談窓口で電話したときもありましたし、担任の先生に相談させてもらったときもあります。そのたびに泣きました。大泣きしました。申し訳ない気持ちと、情けない気持ちと、結局その繰り返しなんじゃないかなって思うんですね。

ライオン：だから、やっぱり結果を求めるのが男なのかなと思います。それを子どもに求めていた僕がいたかなと、今さらながら思います。でもそれはちょっと（子どもに）負担やったんかなって思いますよね。

ライチョウ：すごく身にしみるといふか、グサッと突き刺さるといふか。自分が、なんでいつもガミガミ怒っちゃうのかなって。それか…と。結果を求めないってことを、これから気を付けていかなきゃいけないんじゃないかなって思いました。

尾木：今おっしゃったようなことは、シングルファーザーでないお父さんたちにも、ぜひ聞いてほしいポイントですね。やっぱり、男の方は仕事をしているから、結果を求めるっていうことはやむを得ないと思うんですよ。（結果を）求めないで子どもを評価できる、見られるっていうのは、やっぱりお母さんの視点だし、お母さんの中でも結果を求める人はいるもんね。だから、このポイントは素晴らしいと思います。

高山：娘さんが、どんなふうにお父さんのこと見ているのか、さらちゃんの声聞いてきました。ご覧いただきましょう。

### お父さんのこと、どう思っていますか？

さら：うーん、好き。優しいし、笑顔だし。

鬼ごっこやろうって言ったら、たまにやってくれる。



### お父さんが怒ったとき、怖いと思う？

さら：ちょっと怖いと思う。

### ちょっとなんだね。それはどうして？

さら：自分でも（悪いと）わかっているから。

たとえばどういうこと？

さら : 言い訳したりするから。

将来の夢は？

さら : ピアニストかピアノの先生のどっちかになりたい。

もしピアニストになったら (お父さんは) 見に来てくれると思う。

高山 : 伝わっていますよ。

すずらん : かわいい～。

ライチョウ : 僕が冷静じゃなく怒ってしまっているときに、娘は僕よりも冷静に受け止めていたんだなって。

高山 : これから、中学・高校と多感な時期を迎えたときというのは、どれくらい想像されていますか？

ライチョウ : 僕も男なんで全然わからないんですよ。たぶん、そのときになってみないと。子どもの心を傷つけることなく対応できるかどうかってところは、やっぱりすごく不安な面はあります。

娘2人を育てた、まつさん。大学4年生の娘に今でも言われ、反省していることがある。



まつ : 中学校の卒業式に、私出なかったんですよ。転職したばかりだと、男ってそんなに休みを急にもらえないじゃないですか？私はもらえない男だったんですよ。それを言いだせない男だったんですよ。

実は、自分は両親を(早く)失っていて、中学校のとき(親が来るとか)そんなのなかったもので、そういうものがそんなに必要なのかというのと、毎日に追われていたというのがあってですね。そしたら、あとから、ドンドン(娘に)言われちゃいますね。たぶん、一生言われ続けると思います。

すずらん : それは、愛情の裏返しですよ？(卒業式に)来て、ずっと「嫌だった」って言われたらショックですけど、「来てほしかった」って言うってことは、愛情ですもんね。

まつ : ああ、そうか…。



尾木 : 大学（の卒業式）は行くのよ。

すずらん : 行ってあげてください。

まつ : わかりました。

高山 : すずらんさん、どうですか？今日は、お母さんという立場で来ていただきましたが。

すずらん : 子どもから学ぶこととか、子どもから楽しみを与えてもらうことって、すごくたくさんあるじゃないですか。ぜひ、シングルじゃないお父さんたちもそういう楽しみがあるんだっていうことを知っていただければなと思います。

尾木 : シングルファーザーの皆さんが持っている感覚を、日本中のお父さん方に持ってほしい。そのことで、子どもたちがすごく幸せ感を獲得できるっていうことだけではなく、働くということ問い直させるような気がするんです。転職しなくても子どもに全力投球ができる、仕事もちゃんとできる、そういう質の高い日本社会というひとつのビジョンというのが、今日は、見えてきたっていうのが大きな成果です。

高山 : うめさん、なんか抜け殻みたいになっていますが（笑）

うめ : やっぱり、経験をされている方の生の声を聞くと、全然違いましたね。

私も本当にやっているつもりですけど、全然やっていなかったの、もっと積極的に子どもに接していきたいなと思いましたね。

皆さんのご意見や体験談をウワサの保護者会のホームページまでお寄せください！

アクセスまってまーす！

パパ ファイト！

（終）